

## 1 題材 「小」

## 2 単元の目標

「はね」や「点」の筆使いを理解し、字形を整えて丁寧に「小」を書くことができる。

## 3 指導計画(全2時間)

第1時 はねの筆使いを理解し、丁寧に書く。(本時)

第2時 点の筆使いを理解し、「小」の字形を整えて、丁寧に書く。

## 4 指導上の立場

## (1) 題材について

本題材は、「はね」と「点」を扱う題材である。「はね」は既習の縦画の終筆部分から移るものであり、多くの字に含まれている。本題材の「小」は画数が少ないが、「はね」「点」の2つの筆使いが含まれている字である。

「はね」を含む文字は硬筆で普段から書くことが多いが、児童は「はね」の向きに注意することはほとんどなく、2画目につながるように、上ではなく左に押し出すようにして、左上にはねるということを初めて知る児童も多いと考えられる。そこで本題材では特に「はね」に重点を置き、はねる時の角度や穂先の向き、筆圧を意識しながらていねいに書くことができるようにしていきたいと考える。また、「点」については「小」の字形と合わせて筆使いを理解させていきたい。

## (2) 児童の実態について

本学級の児童(男子18名、女子14名)は、毛筆の使い方にも慣れ始め、どの児童も興味をもって学習に取り組むことができている。既習の「とめ」「はらい」などでは自分のめあてをもち、進んで課題に取り組むことができた。また、試書とまとめ書きを比べる時には、自分の字だけでなく友達の伸びにも気づき、認め合えることができるようになってきている。

児童の実態を踏まえ、本単元では新たな文字の組み立て方について理解し、よりよい字を書こうとする態度や技能を育てていくとともに、友達を認めることができ、互いに伸びを喜び合える集団づくりを目指したいと考える。

## (3) 研究テーマとのかかわり

本時では、研究テーマとのかかわりを受けて、次の支援の工夫を考えた。

## ○めあてをもつ工夫

範書を録画した動画を見せることで、児童が基準をつかみやすくなるようにする。また、練習用紙に交点番号を入れることで児童が思いを伝え合う時に共通した話し合いができるようにする。

## ○自分タイムでの工夫

「はね」の基準をつかみ、自分の課題に向けて練習できるようにするため、4種類の練習用紙から選択できるようにする。また本時では、「はね」を意識して練習できるように2・3画目をあらかじめ籠字にした用紙を用意する。

## ○みんなタイムでの工夫

自己評価、相互評価において伸びを実感できるように試書とまとめ書きを見比べることができるシートを用意する。また、ペアを組むことで互いによさを認め合える場を設定し、伸びがわかる場所にシールをはっていくことで、集団作りの基盤となる良好な人間関係を築くことができるようにする。さらに、肯定的な評価をもらうことで自分のよさを再認識し、自己肯定感の育成にもつなげていく。

本時案 (第1時)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はね」の筆使いを理解し、丁寧に書くことができる。</li> <li>・試書とまとめ書きを比べ、互いの伸びを認め合うことができる。</li> </ul>	
学習活動	教師の支援	準備物
<p>1 めあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試し書きをする。</li> </ul> <p>・「小」を書く上で難しかったところや参考手本と違ったところを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢、筆の持ち方、用具の置き方を確認し、意識できるように促す。</li> <li>○本時は「小」を学習することを伝え、筆順を確認した後、試し書きをするように伝える。</li> <li>○試し書きと参考手本を比べ、めあてをつかむことができるようにする。</li> </ul> <p>〈予想される発表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1画「はね」の筆使い</li> <li>・第2画, 3画の筆使い</li> <li>・「小」の字形, 始筆の位置</li> </ul>	<p>掲示用拡大手本 児童の普段の文字の拡大図</p> <p>見比べシート 参考手本</p>
<p>「はね」に気をつけて、ていねいに書こう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準をつかむ</li> </ul> <p>2 めあてに気をつけて練習をする。</p> <p>【自分タイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習をする。</li> <li>・まとめ書きをする。</li> </ul> <p>3 自分や友達作品を見て話し合う。</p> <p>【みんなタイム】</p> <p>4 まとめをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○点画ピースを使い「はね」の向きに注目させることで、はねの向きを意識することができるようにする。</li> <li>○デジタルテレビに運筆動画を流すことで、筆使いや穂先、筆圧を意識して書くことができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>縦画を書き、筆を一度止める。第二画に向けて左に押し出すようにはねる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のめあてに合った練習用紙を選択し、練習を進めていくことを伝える。</li> <li>○机間指導では、一人ひとりの伸びを見つけ、頑張りを認めるようにしていく。</li> <li>○本時のめあてを確認しながら空書をした後、まとめ書きをするように伝える。</li> <li>○まとめ書きを試し書きの横に貼ることで、めあてに沿った自分の伸びを確かめることができるようにする。(自己評価)</li> <li>○ペアの児童とまとめ書きを見合い、よいところにシールを貼っていくこと(相互評価)で、互いの伸びやがんばりを認め合えるようにする。</li> <li>○相互評価の後、友達の良いところを全体の前で紹介する場を設ける。</li> <li>○「はね」に気をつけて書くことができたことを確認し、課題解決に向けて取り組むことができたという実感をもたせるようにする。</li> <li>○次時は、点の筆使いに気をつけ、字形を整えて「小」を書くことを知らせる。</li> </ul>	<p>点画ピース</p> <p>DVD</p> <p>練習用紙 (籠文字, 骨文字 穂先練習 部分練習)</p> <p>見比べシート シール</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「はね」の筆使いの中で、一度止めてから左へ押し出すようにはねることができている。</li> <li>○試書とまとめ書きを比較し、めあてに沿って認め合うことができている。</li> </ul>	